

「農業委員として活動することで、世界が広がった」と話すのは、蔵王町遠刈田地区で酪農を営んでいる阿部枝織さんだ。結婚を機に移住し、家族で酪農を営み27年目になる。現在は60頭の乳牛と50頭の育成牛を飼育している。

埼玉県さいたま市出身の枝織さんは、農業とは無縁の地で育った。サラリーマン家庭に育ち、幼い頃は父親とすれ違いの毎日に淋しさを感じていた。生き物や自然が大好きなこともあり、家族で農業を営む生活に憧れていた。

枝織さんは、飼育牛の体調管理に留意し、病気の早期発見に努め、安心安全な生乳生産を心がけている。

前任の農業委員の推薦を受けた詩織さんは、令和5年7月に農業委員に就任した。「農業委員として活動することで、異業種との交流も増え、今まで以上に農業の問題を深く考えるようになった」と話す。

今年2月、農林業センサスの調査員として活動した際、町に耕作放棄地が増えつつあることに危機感を肌で感じた枝織さん。「今後も町の観光資源である農地を守るために、遊休農地の解消に取り組みたい。酪農家としてはいずれ法人化し、観光の一つとして色々な体験ができる牧場を目指したい」と抱負を語る。

牛舎を清掃する阿部さん



左から息子の賢斗さん（左）、詩織さん、夫の賢一さん

